

太陽の子

2019年 1月 No.166

冬 の 号

発 行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



グループ活動でひたち海浜公園に行きました。キレイなお花に美味しいご飯、お土産選びも楽しめました♪ (日立市太陽の家)

心地良く、望む生活、

自立した生活ができますように

日立太陽の家相談支援事業所 横田 寿子

相談支援事業は8年が経とうとしています。

1歳前後で初めて障害福祉サービスを利用する方。介護保険へ移行する方。還暦のお祝いを迎えた方もいました。ご家族の方が高齢になり介護保険関係との連携も増えています。自宅での一人暮らし、施設やグループホームへ入所されて今までとは違う新たな環境での生活を始め、それぞれがストレスを發揮しています。こんな事が出来るんだと周りの方をビックリさせています。

何年も前は通所施設だけの利用しかしていなかった方も、今は自立に向けていろいろな方との生活スタイルをされている方が増えてきました。もちろん最初はご本人や家族も不安がたたくさんあったと思いますが、見学や話し合い、体験を重ね、お付き合いの幅を広げてきています。関わっている方々と定期的に話し合える機会も出来てきています。

医療機関から生活に関わる沢山の方とのお付き合いで互いに支え合いながら生活しているんだと日々実感しています。

今この瞬間の出会いが自分と相手との幸せに繋がりますように。家族の方と共に支えていくお手伝いができるようにいつも考えています。これからも、ご本人、ご家族、医療機関、訪問リハビリ、訪問看護師さん、学校、施設など各事業所等の皆さんと連携をとっていければと思っています。望む生活に向かつて！



喀痰吸引研修に参加して

日立太陽の家 風の家 支援員 黒田 如恵

この度喀痰研修に参加させていただきました。重症（児）者に関わらせて頂く中で喀痰吸引や経管栄養だけでも私達介護職員が出来たらもっと利用者さんの活動の幅が広がるのではないかと、出来たらいいのになあ……。

出来るようになったらいいのになあ……。と長年思い続けてきました。施設や在宅サービスでは看護師が不足していることもあり利用者さんは不便を感じることもあったのではないかと思います。これまで介護職員によるたん吸引等は、当面やむを得ない措置として一定の要件の下に運用（実質的違法性阻却）されてきましたが将来にわたって、より安全な提供を行えるよう法制化となりました。

為を実施できることとなりました。『たん吸引等』の範囲とは、『たんの吸引』（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ）『経管栄養』（胃ろうまたは腸ろう、経鼻経管栄養）です。実際に介護職員等が実施するのは研修の内容に応じ、前記行為の一部または全部となります。また、施設や住宅（訪問介護事業所等から訪問）などの場において介護福祉士や介護職員等のいる登録事業所により行われます。

これらの要件を満たし、研修を受け、県に認定特定行為業務従事者としての登録を済ませることにより介護福祉士による喀痰吸引が可能となります。しかし、あくまで看護師ではないため介護福祉士の目線を忘れずに体位ドレーナージや口腔ケア、加湿等できる限り色々な目線を忘れずに利用者さんの呼吸が楽にできるような取り組みをしていきたいなと思います。体位ドレーナージとは重力を利用し体を動かすことで分泌物（痰など）を移動させ外に出しやすくする

方法です。今回の研修にも組み込まれていました。研修で再確認をし、今までの経験をいかし、リハビリスタッフや看護師との連携を図りながらボディドレーナージもできる限り採り入れていけたらと思います。

今以上に過こしやすい生活が送れるように日々勉強させて頂きながらスキルアップを図り、これからも精進していきたいと思います。



職員リレー

自分の力・ラ・ダ

日立市ひまわり学園 支援員 阿部 結花

太陽に入ってから11年お世話になってる。私用で休むことはあっても、体調が悪くて仕事を休むのは、記憶をたどっていくが思い出せないほど無かったと思う。小さい頃から体だけは丈夫だった。（頭と目だけは悪い）病気になる病気をしたことがなかった。母親からも「あんたはおてんばで元気だった」とよく聞かされていた。

なな・なんと、そんな私が、去年8月の終わりの頃、熱を出し病院に行くと、ある病名がかった。初めて1週間も休

む事となった。その病名を聞いたとき、自分でもびっくりしてしまった。お医者さんにレントゲンを見せられ「白くなってます」と言われたが、信じられなかった。本当に私のレントゲンかと先生を疑ってしまった。こんなに健康に

息を付けているのに、体にいい物を食べているのに、ヨガもやっているのに、色んな思いが頭の中を駆けめぐっている。入院は免れたが、自宅療養になった。軽く考えていた私は、二三日休めば大丈夫だと思ったが、お医者さんより

レントゲン技師さんに「病気を甘く見てはダメよ」「これで命を落とす人もいるのよ」「何もしないでゆっくり休みなさい」ときつく釘を刺すように言われ、腹をくくった私は1週間休む事にした。

1週間も休むのは初めてで、じつとしていられるのかと心配だったが、「ゆっくりしなさい」の言葉が頭をよぎり、ご飯だけは作ることにしてそれ以外はゆっくり過ごす事にした。周りの反応がおもしろかった。その病名を言うと1回は絶対聞き返し、心配しながらも笑っていた。旦那はびっくりしたように、やけに優しい。家事を手伝ってくれた。たまには病気になるのも悪くないなと心の中で思ったが、やはり健康がいなとつくづく思った。

体のことは気を付けて生活していたつもりだが、本当に今回は病気になるって真剣に考えるようになった。人生折り返しを過ぎ知らず知らずのうちに疲れが溜まっていたのだらう。ほどよく遊んで、ほどよく仕事して、ほどよく休んで、たくさん笑って暮らしているのが一番だと思ったが、考えながらも落花生食べていた。やっぱり好きな物を食べるのが一番かな。

日立守る会だより

日立重症心身障害児（者）を守る会

新春放言



佐藤 芳 昭

みなさま、新年誠におめでとうございます。平成も今年の四月末日で幕を閉じ、新元号になりますが、元号は政令で定め、皇位の継承があつた場合に限り、改めることを規定とした法律とこのことです。（広辞苑より）新しい元号はどのような元号になるのでしょうか。この記事がみなさま方の目に留まる頃には、もう決っているかも知れません。

今年は身近なところで、新しくなるものがあります。それは、鳩が丘障害者福祉施設が改築され複合施設として新しく生まれ変わることになります。従来、別々に建っていた四つの施設（太陽の家・しいの木学園・ひまわり学園・母子療育ホーム）が一つに統合整備され、同時に市民の方々が

ることとなります。

今後の新しい施設は、一つの屋根の下に障害の異なる四つの種別の障害者と親御さん達が利用する施設（障害の種別により、生活する部屋は異なる）であるため、何らかの親同士の話し合いが大切なことではないでしょうか。又そのような場を作り交流を図るような環境を設けることも必要であろうと思っています。

これにはまず前施設を利用して、新しい施設利用について話し合う方法、又各施設の親の役員達が集まって事前の話し合いをする方法。利用者の親御さんからアンケートを採って親達のニーズを把握しそれを踏まえて考えていく等々、色々選択肢が考えられますので折を見て話し合いを行なうことが大切なのではないかと思っています。これから五十年位はこの施設で頑張るようになることを思うと、現時点で考えられる最良の親の会の在り方を作ることが利用する子供達のためにも重要なのではと思っています。何事も最初が肝要です。

利用者の親御さん方も施設の中で親同士がどの様なかわりを持てば子供達のために

良いかを考えてみることも必要なことでしょう。

以上私の思っていることの一端を申し述べてみました。私

終活はじめました

大久保 澄江

十一月義父の一周忌を無事にすませました。百歳まで長生きするとよく話をしていたのですが……。入院し日に日に点滴の量が増え、一ヶ月後には呼吸器を付けましたが、入院二ヶ月半くらいで亡くなりました。呼吸器を付けてからは、コミュニケーションも出来なくなり心残りでありました。

悲しむ暇もなく、葬儀の準備でバタバタと時間が過ぎていきました。つい最近になり義父の遺品の整理をしながら、ふと義父の事を考えるようになり、病院のベッドの上で、薄れゆく意識の中何を考えていたのだろうか。私達に言い残したい事はなかったのだろうか。呼吸器を付けた事は正しかったのか。

それからというもの、私は自分自身の事も考えるようになりました。残された子供達が今の私のように困惑し悩んで

の放言と思つて受け止めて下さい。

みなさま方はいかがでしょう。

だりしたら……。そう考えた時、今から準備をしておこうと考えました。

まずは延命治療の件。そして葬儀の件、銀行関係、保険、そして連絡先のリストといういろいろあります。書類は子供達が一目見て理解出来るように整理し、種類別にしてファイルにまとめました。

そして一番大事な事。そう愛する娘の事です。残された子供達に負担にならないように、普段から言っているように、施設にお願いするようにと書面に残しました。施設に入所しても、時々顔を見に行つて声を掛けてほしい事も。感情豊かな娘は、さみしくても恐くてもすぐ泣いてしまします。二番目の子が産まれる時施設に十日間預けた際、娘は毎日毎日泣いていたそうです。食事でも難しかったようです。迎えに行つた時の娘は別人の様

(次頁へ)



レストランを貸し切って皆で昼食。美味しそうなハンバーグ……あっという間に完食です。(ひまわり学園)



かくれんぼさんの人形劇♪ かわいいお人形さんたちに楽しいお話しでみんなニコニコでした。(太陽の家)



園外活動を行いました。海をバックに写真撮影。海風がとっても気持ちいい日でした。(ひまわり学園)



「かかし祭り」でイノシシの大きな人形を見つけました。今年は猪突猛進☺ (日立太陽の家居宅介護事業所)

◎平成三十年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数 三百十五名
男性 百八十三名
女性 百三十二名

お知らせ

また、衣服の整理も少しずつはじめました。断捨離です。全ては子供達の為と思い、勇気を出して断捨離をしています。いろいろと考えると、やらなければならぬ事はまだまだたくさんあるようです。還暦を迎え私もいつどうなるかわかりません。子供達の為に、今から出来る事は少しずつでも整理していこうと思っています。

(前頁より)
子でした。無表情で声を掛けてもあの笑顔はありませんでした。涙があふれ、「ゴメンネ、ゴメンネ」と言っていて抱きしめて泣いた事を今でも忘れません。たった十日間で笑顔を失ってしまったのです。
昨年、胃ろうを付けたのも準備の一つです。今はまだ口から摂取していますが、入所した時に施設の方で困らないように、前向き胃ろうという事で医師と相談して付けました。

○退所
施設入所
安齋純子さん
グループホーム入所
鈴木麻己さん
西山寛光さん
緑川大輔さん
○訃報
後藤善弘さん
十一月逝去されました。
いつもみんなを笑顔にしてくれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
ご寄付ありがとうございます
○次の方から寄付を頂きました(敬称略)
九月～十一月
黒澤弘明 人形劇かくれんぼ
○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)
日立ライオンズクラブ
椎名将光 大森健二 とく名
長谷川秀世 篠原小百合
沼田仁子 榎田孝行
葛西紀子 綿引柁貴
新しく動き出す年、目標を立てた方も多いと思います。それぞれの思いが叶えられる良い一年になりますように。
(K記)

編集後記